2022 年 5 月 30 日（月）デーリー東北 22 面掲載

南八甲田倒木 専門家が再調査

根元から80メートル 飛んだ幹確認

南八甲田猿倉岳の東斜面で、突風が原因と思われる倒木が見つかった問題で、弘前大大学院理工学研究科・気象学研究室の石田祐宣准教授が29日、現場を再調査した。根元から約80メートル離れた地点まで吹き飛ばされたとみられるブナの幹などを確認した。

突風で吹き飛んだとみられる樹木の幹を調べる石田祐宣准教授（左）ら＝29日

倒木の現場は、猿倉温泉から乗鞍岳や櫛ケ峰に通じる登山道上。

石田准教授によると、これまでの調査では、猿倉岳の東斜面中腹から矢櫃沱（やびつやち）にかけ、４００メートル四方で多数の樹木が倒れ、幹や枝が散乱しているのを確認している。

同日の再調査では、雪に埋もれていたことで、前回は調べられなかった場所の状況などを確認した。

現地では、過去にも局地的な突風が原因とみられる倒木が見つかっている。石田准教授は取材に「過去の気象条件をさかのぼり、ダウンバーストなど全ての可能性を含めて原因を探る」と語った。

一方、調査に同行した自然保護団体「八甲田・十和田を愛する会」の久末正明代表は「事故防止を考え、行政の整備が終わるまで登山は控えた方がいい」と指摘した。

（船渡拓）

※この画像は当該ページに限って
陸奥新報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp